別紙様式

令和　6　年度　学校評価シート

学校名：　和歌山県立　向陽高等学校　　校長名：　松　本　泰　幸

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・確かな学力と豊かな人間性を身につけ、自己の進路目標を実現し、将来社会に貢献できる人材の育成
・何事においてもひたむきに取り組み、創造的・主体的で自由闊達に活動し、社会で活躍できる知識・技能を有する生徒の育成
・国際感覚や多様性を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

学校評価の公表方法

ホームページへの掲載
ＰＴＡ役員会等での説明
学校運営協議会での説明・協議

現状・進捗度		
A	十分に達成している。	（80%以上）
B	概ね達成している。	（60%以上）
C	あまり十分でない。	（40%以上）
D	不十分である。	（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組 重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	評価（２月１４日現在） 進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	新しい時代に必要となる資質・能力の向上に向けて、三つの柱（①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等　③学びに向かう力・人間性）を軸にして主体的で自律的な学習習慣を形成する。	B	学習習慣を身につけるため ・向陽手帳等を用いた学習計画の確立 ・週例テスト等の研究及び実施	家庭学習時間等の増加（週１４時間以上）	B	向陽手帳、積スタ等を活用し学習計画を立てるとともに、日々の学習の記録に取り組み、学習時間の向上につながっている。	今後も、手帳、スタディサプリ、学習の記録を活用することにより、学習時間を客観的に認知し、自らの学びをより有効に組み立てることをめざす。 全校体制で授業研究を行い、ルーブリックの活用、探究型授業、教科等横断型授業の深化を目指す。
			・各教科における探究型授業・教科等横断型授業の研究	研究授業、公開授業及び情報交換会等の実施	A	探究型授業、教科等横断型授業の研究授業協議、公開授業を実施した。	
			・新評価システムや評価内容等の検証	教科主任ヒアリングの実施（年２回）	A	ヒアリングや教科間交流会により、評価方法を検証した。	
2	人権尊重の態度や人間関係形成能力、自尊感情、ＴＰＯに応じた判断力を育成するとともに、キャリア教育の更なる充実に取り組む。	B	・特別活動の充実 ・個別の生徒指導の重視	ＬＨＲ・学校行事の充実と定期的な面談の実施(年3回)	A	キャリアパスポートを活用し事前指導・事後指導を充実させた。	進路指導部を中心として、進路アセンブリーを強化するとともに、個人面談等も重視し、客観的な自己理解、キャリア形成を確実なものとする。
			・自己のキャリア形成にかかる進路指導等の充実	進路指導に係る現職教育や検討会の充実	B	希望する進路の実現に向けて３学年を中心として進路検討会を２回実施した。	
			・個人面談や保護者説明会等の計画的な実施	進路説明会等の実施および内容の充実	A	PTA 学習進路委員会と連携し、進路説明会を実施した。	
3	全校で課題研究を円滑に実施し、確かな学力へとつなげる。	B	・課題研究の内容及び取組が、調べ学習にとどまっていないかの検証	課題研究等の成果発表会の実施及び研究内容のチェックの強化	A	課題研究に係る中間発表会、成果発表会を開催し、県内外の学校関係者等から高い評価を得た。	向陽みらい創造委員会を中心として探究活動、探究型授業教科等横断型授業の開発を進め、全校体制で取り組み、学力の向上につなげる。
			・授業における対話やグループ学習の積極的な活用	対話型やグループ学習型授業の実施	A	「KOYO」の力の定着のため、ｱｳﾄﾌﾟｯﾄを意識した授業を展開できた。	
4	高度情報化社会で活躍できる人材を育成するため、ICT 教育を充実させる。	B	・ICT で使用するアプリケーションの充実と共有化	１人１台端末でのアプリの活用と充実	B	総合的な探究の授業を中心に、１人１台端末の活用が進められた。	ICT 推進委員会のメンバーを中心に実践した一人一台端末を活用した授業を校内で共有し、WIFI 環境に応じた一人一台端末の活用方法を研究し、授業での活用を推進していく。
			・ICT 教育に関する現職教育の実施	現職教育の実施（年１回）	A	ICT 推進委員会の企画で現職教育を実施した。	
			・ICT 推進委員会を中心とした機器活用の啓発	ICT 活用教材の作成と授業での活用方法の共有化	B	ICT 推進委員会から各種情報を発信し、教職員間の共有が図れた	

学校関係者評価（２月 14 日実施）

２月１４日に実施した第４回学校運営協議会において、学校評価アンケート（Ｒ６年度第２回〔1 月実施〕）の結果をもとに協議を行った。

【委員からの意見等】
・特に、高校教員の評価が昨年度と比べて低くなっているが、日頃から質問項目の内容に対してより高いレベルで評価していることが感じられる。
・基礎学力の定着を図る目的で行われてきた「週例テスト」を今年度で廃止する背景には、普段から研究授業や公開授業を実践し指導方法の工夫や改善に向けた取組が学校全体で行われているということが評価結果から伺える。
・南海トラフ地震の発生を想定した避難訓練の形を工夫したことで職員の危機管理意識の感度が上がり、そのことで、火災や不審者の侵入等への対応も意識できるようになったと感じる。
・保護者向け学校評価アンケートの実施方法について、対象者を PTA 本部役員のみから PTA 本部役員以外の保護者に拡げてはどうかという意見が出たが、各クラスから委員（本部役員）を選出しており、委員に情報が入ることから、次年度以降も今回の調査方法で実施することになった。